

活動名	国際超小型衛星研修 (CanSat/CubeSat Leader Training Program) 2025
-----	---

貢献・連携類型	3. 国際連携
---------	---------

報告者	航空宇宙工学科	学科	職位	准教授	氏名	山崎 政彦
-----	---------	----	----	-----	----	-------

<p>概要（実施したこと、進捗状況等）について記述してください。</p> <p>本活動は、超小型人工衛星（CanSatおよびCubeSat）の設計・開発・運用に関する総合的な教育プログラムであり、国際的な人材育成および宇宙工学教育の発展を目的として実施したものである。プログラムでは、人工衛星システムの設計手法、開発工程、試験・評価、さらには教育への応用方法までを体系的に学ぶカリキュラムを提供した。講義と実習を組み合わせた形式で行い、参加者は実際の衛星モデル（1U CubeSatキット）を用いて設計から統合・試験、ミッション立案から実現、教育実習までを体験した。</p> <p>今年度は、ドミニカ共和国、オマーン、アラブ首長国連邦、インド、ケニア、タンザニア、ウガンダ、ナイジェリア、エジプト、オーストラリア、フィリピン、ボスニア・ヘルツェゴビナの13か国から計15名の参加者を受け入れた。参加者は大学教員、研究者、若手技術者で構成され、プログラムを通じて、地域・国際社会における衛星開発教育の担い手としての知識・技術を修得した。また、本学学生（1年生から大学院生）や教員も講師として参画し、国際的な交流を通じた相互学習を促進し、宇宙工学への関心醸成にも貢献した。</p>
--

<p>今後の展望、本活動で得られた成果を記述してください。</p> <p>本活動を通じて、参加者は実践的な衛星システム開発スキルを習得するとともに、教育者として自国での人材育成プログラムを展開する基盤を築いた。すでに複数の参加国において、当プログラムを参考にした衛星教育カリキュラムの立ち上げが進行中であり、地域社会への波及効果が期待される。本学としても、本プログラムを通じて構築された国際ネットワークを活かし、アジア・アフリカ・中東地域との教育連携・共同研究をさらに発展させていく方針である。特に、地域社会や高校・中学校を対象とした科学教育活動、ものづくり体験、国際理解教育との連携を強化し、大学の知的資源を社会へ還元していく。これらの活動を継続的に展開することで、本学の社会貢献・国際貢献機能の一層の強化を図り、地域から世界へ広がる実践的な教育モデルとして発信していく予定である。</p>
--

対象・相手先	全世界の教職員
--------	---------

協定書・依頼の有無（具体的に記入） 大学宇宙工学コンソーシアムからの依頼

実施日時	2025年8月19日～8月29日
------	------------------

場所	船橋キャンパス
----	---------



本学からの参加者 航空宇宙工学科：山崎政彦 学部1年生1名，2年生2名，3年生1名，4年生2名，大学院生6人
--



日大
理工